

英語語彙におけるイタリック系二重語(3)

安 達 一 美

(武庫川女子大学文学部英米文学科)

2 イタリック系二重語の経路による分類

C その他の経路による借入

ラテン語を語源とする英語語彙のうちで、ラテン語からの直接借入以外に、前節のフランス語を含むロマンス語を経由しての借入によるものがある。ロマンス語経由で借入された語彙の割合は英語語彙の約30%あり、その大半はフランス語からの借入であるが、イタリア語(*A Chronological English Dictionary*において788語)、スペイン語(同579語)、ポルトガル語(同117語)などからの借入も含まれている¹⁾。これらのロマンス語が英語に影響を与え始めるのは16世紀以降であり、ルネッサンスの影響や新世界への関心の高まりが、これらの言語からの借入を増やし、英語語彙をより豊かにし地中海的色彩を加えた。

イタリア語からの借入は、14・15世紀にも軍事・交易に関する語彙が僅かにあったが、それらはフランス語経由のものであった。16世紀以後、イタリア旅行が盛んになり、イタリアの文化や言語への関心が高まって、風物・文学・美術・音楽に関する多くの語をイタリア語から直接借入することになる。ことに、イタリア文学がイギリス文学に大いなる影響を与え、1500年から1650年にかけて数多くの借入があった²⁾。スペイン語についても、16世紀後半になると、スペインの国力が増大されたこととイギリス女王Maryとスペインの皇太子Philip(後の国王Philip2世)との結婚(1554年)などによってスペインへの関心が高まったり、スペイン文学の翻訳がイギリスで成功を取めたこともあって借入語がふえることになる。また、新大陸への進出にともなう南北アメリカや西インド諸島での英語とスペイン語の接触によっても多くのスペイン語が借入され、特に18世紀以降数百のスペイン語語彙がスペイン・メキシコからアメリカ英語に入った。それに対して、ポルトガル語からの借入は、フランス語・イタリア語・スペイン語に比べるとその語数は少なく、主にポルトガルの植民地での接触によるものである。ルネッサンスまでイギリスと敵対関係にあったことが、借入語の数を僅かなものとした要因となったとも考えられる。

どの時代に俗ラテン語からロマンス語へと分化していったのかを厳密に述べることはできない。カロリング・ルネッサンスにおける古典ラテン語に返そうとする運動にもかかわらず、813年のトゥールの公会議において各地のロマンス語で説教するようという決議がなされた。このことは、ロマンス語がすでに存在していたことを示している。ロマンス語へと分化していった要因として、ローマ帝国崩壊とともに中央への吸引力が弱まり言語・文化の統一が失われていったことと、ロマニア各地の先住民族の基層語と侵入民族の上層語の影響が考えられる。主要な基層語としては、イタリアにおけるギリシア語・エトルリア語・ウンブリア語や、フランスでのゴール語・ギリシア語、スペインのイベリア語・バスク語等があり、上層語としては、フランスでのフランク語、北イタリアでの東ゴート語、スペインでの西ゴート語等のゲルマン系の言語やアラビヤ語、スラブ語等がある。

俗ラテン語で生じた大きな音韻的な変化の一つは、古典ラテン語ではpitch accentであったのがstress accentになったことである。その結果、音量的対立を基調とする古典ラテン語の母音体系は、俗ラテン語では音質的対立を基調とするものとなり、強勢のない母音は音変化をとまったり、弱音化が進み、強勢音節後の母音が消失するものも生じた。この母音体系がロマンス語の母音体系の基盤となったが、これには地域的差異を伴うものであった。また子音においても、語尾子音の脱落、母音間の破裂音の有声化、母音a, e, iの前のc[k]やg[g]の口蓋化、母音間のsの有声化等が生じた。これは、古典ラテン語の音量

的対立や調音方法に順応できない各地の基層語・上層語の影響によるものであり、地域によって異なった結果を生じた。ことに民族移動による文化の変遷の激しかった西方ロマンス語での音変化が大きかった。

古典ラテン語における語中の *ti*[tʰi] は、ロマンス語で有声音・無声音の二様に変化した。つまり、重子音化して [tʰi] となり更に擦音化して [tʰç] となる場合と、擦音化して [ts] となり口蓋化を伴って有声化して [dz] となる場合がある。無声擦音化の [tʰç] は更に、[tʰs]→[ts]→[s] または [θ] へと変化して行き、イタリア語は *zz*[ts] へ、フランス語は *c/ç*[s] へ、ポルトガル語は *ç*[s] へ、そしてスペイン語は *ç*[ts]/*z*[θ] へと変わっていった³⁾。この変化に伴って生じた二重語には、L. *influentem* (ML. *influentia*) を語源とする *influence/influenza* や L. *platea* (VL. **plattea*) を語源とする *plaza/place/piazza* 等がある。influence はフランス語から *influenza* はイタリア語からの借入である。plaza はスペイン語から、place はフランス語から、piazza はイタリア語からそれぞれ借入された。また、piazza の語頭の *pi* は俗ラテン語における 'p' が語頭 *p, b, c, g, f* に続くとき *i*[i] に変化したもので、これはロマンス諸語のうちでイタリア語にのみ見られる音変化である。有声擦音化の [dz] はフランス語においては口蓋音化の *is*[iz] に変わった。この変化に伴う二重語の例としては、L. *ratio* を語源とする *ratio/reason* がある。

古典ラテン語における語頭 *c*[k] (軟口蓋破裂音) は、後に母音 *e, i* が続く場合には、[k]→[kj]→[tç]→[tʰ]→[ts]→[s] へと調音点を前方に移動させる口蓋化が進み、イタリア語は [tʰ] を古フランス語や古スペイン語は [ts] を受け継いだ。そして、フランス語では 12 世紀初頭頃には、[ts] から [s] へと変化したようである⁴⁾。また、後に母音 *a* が続く場合には、ガリア北部とレティア・ロマニアにおいてのみ [k]→[kj]→[tç]→[tʰ]→[ʃ] (または [ts]) へと変化して、フランス語では 13 世紀頃に [tʰ] を経て硬口蓋摩擦音 [ʃ] (表記 'ch') になった⁵⁾。しかし、イタリア語・スペイン語・ポルトガル語・ルーマニア語ではラテン語音を保持した。この変化に伴う二重語の例として、*canzone/chanson, cadence/chance, cavalry/chivalry, caste/chaste* 等が挙げられる。なお、VL. **cadentia* を語源とする *cadence/chance* では、語頭 *c* の口蓋化のほかに、ラテン語における語中母音間の *d* が消失したという音変化の例ともなっている。語中母音間の *d* はイタリア語・ルーマニア語等の東方ロマンス語では一般的に保持されたが、フランス語・スペイン語・ポルトガル語等の西方ロマンス語において、歯間摩擦音 [θ] を経て消失して行った。

古典ラテン語の語中母音間の *k, p, t* (無声破裂音) は、東方ロマンス語では無声音のままであったが、ゴール語の影響を受けた西方ロマンス語のフランス語・スペイン語では有声化し、特に、フランス語においては更に進んで消失してしまった。この変化による二重語の例として、L. *armata* を語源とする *army/armada* 等がある。

ロマンス語ではないが、オランダ語も英語の語彙を豊かにした言語である。羊毛産業は中世時代のイギリスの主要産業であり、フランダースやオランダに羊毛を輸出したり、イギリス国王の奨励によって多くのオランダ人の織工が英国に定住するようになった。そのための船が二国間を頻りに往来することになり、航海用語・商業や技術用語などが借入されることになった。ゲルマン系のオランダ語がラテン語起源の語彙を借入し、それを英語が取り入れ二重語となったものがある。L. *mercatus* を語源とする *mart/market* や、L. *clocca* を語源とする *cloak/clock* がその例であり、*mart* と *clock* がオランダ語経由である。clock は中世ラテン語より古フランス語に入り、中世オランダ語を経て英語に入ったものである。

ロマンス語などその他言語を経由して借入されたイタリック系二重語は以下の通りである*。

① <イタリア語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語

canzone / chanson [None]

[*canzone* n.](1590) "a song, ballad" < It. *canzone* < L. *cantiōnem* (acc. of *catio* 'a song')

[*chanson* n.](1609) "a (French) song" < F. *chanson* < L. *cantiōnem* (acc. of *catio*)

* リストの読み方及び略語は、『英語語彙におけるイタリック系二重語(1)』に準ずる。なお、紙面の都合で次の二重語を省略した。(二重語 ①*air/aria, bosket/bouquet, madam/madonna, replica/reply*, ②*barge/bark*, 三重語 ①*rapine/ravin/ravine, tense/tent/toise, race/radish/radix*, ②*ensample/sample/example*, ③*cark/cargo/charge*, 四重語 *dado/date/datum/die*)

firm / farm [研究社]

[firm n.](1574) “signature, sign-manual” < It. *firma* ‘signature, confirmation’ (fr. *fir-mare* ‘to sign’) < L. *firmāre* ‘to make firm, affirm’

[farm n.](c1386) “a fixed yearly sum accepted from a person as composition for taxes or other money which he is empowered to collect” ME. *ferme* < (O)F. *ferme* ‘lease’ < ML. *firma* ‘fixed payment’ < L. *firmāre*

influenza / influence [None]

[influenza n.](1743) “a specific febrile zymotic disorder, highly contagious and occurring for the most part in widespread epidemics” < It. *influenza* ‘influence’ < ML. *influentia* ‘influence’ < L. *influentem* (pres. p. of *influēre* ‘to flow in’)

[influence n.](c1374) “(in Astrol) the supposed flowing or streaming from the stars or heavens of an ethereal fluid acting upon the character and destiny of men, and affecting sublunary things generally” < F. *influence* ‘emanation from the star’ < ML. *influentia* ‘influence’ < L. *influentem* (pres. p. of *influēre*)

portico / porch [Klein, Barnhart, 研究社]

[portico n.](1605) “a covered ambulatory consisting of a roof supported by columns placed at regular intervals, usually attached as a porch to a building” < It. *portico* ‘a porch’ < L. *porticus* ‘arcade, colonnade’

[porch n.](c1290) “an exterior structure forming a covered approach to the entrance of a building” < OF. *porche* ‘a porch’ < L. *porticus*

② < 古フランス語 < イタリア語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテン語

cadence / chance [Barnhart]

[cadence n.](c1384) “the flow of verses or periods; rhythm, rhythmical construction” < F. *cadence* ‘rhythm; a cadence, a just falling of words’ < It. *cadenza* < VL. **cadentia* ‘falling’ < L. *cadentia* (neut. pl. of *cadēns* ‘falling’)

[chance n.](1297) “the falling out or happening of events” ME. *chaunce* < OF. *cheance*, *chance* ‘chance’ (F. *chance*) < VL. **cadentia* < L. *cadentia* (neut. pl. of *cadēns*)

cavalry / chivalry [Klein]

[cavalry n.](1591) “horsemanship; chivalry” < F. *cavallerie* < It. *cavalleia* ‘knight’ < L. *caballārius* ‘horseman’

[chivalry n.](c1300) “knights or horsemen equipped for battle” ME. *chivalrie*, *chivalerye* < OF. *chevalerie* ‘horsemanship, knighthood’ (fr. *chevalier* ‘knight’) < L. *caballārius*

③ < ポルトガル語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテン語

caste / chaste [Barnhart]

[caste n.](1555) “a race, stock, or breed” < Port. *casta* ‘a(unmixed)race, stock’ (fr. *casto* ‘pure’) < L. *castus* ‘pure’

[chaste n.](a1225) “pure from unlawful sexual intercourse” < OF. *chaste*, *caste* < L. *castus*

④ < フランス語 < イタリア語 < スペイン語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテン語

compliment / complement [Barnhart]

[compliment n.](1578-1707) “a ceremonial act or expression as a tribute of courtesy” < F. *compliment* ‘expression of respect’ < It. *complimento* ‘compliment, civility’

< Sp. *complimiento* (fr. *cumplir* ‘to fit, furnish, to fulfil, accomplish’) < VL. **complimentum* = L. *complēmentum* ‘that which fills up or completes’

- [complement n.](1398) “that which completes or makes perfect” < OF. *complement*
< L. *complēmentum*
- ⑤ < 中世フランス語 < イタリア語 < ラテン語 vs. < スペイン語 < ラテン語
musket / mosquito [None]
[musket n.](c1425) “the male of the sparrowhawk” < MF. *mousquet* ‘a musket
(hawke, or piece)’ < It. *moschetto* ‘arrow for a crossbow’ (fr. *mosca* ‘a fly’) < L.
musca ‘a fly’
[mosquito n.](c1583) “a gnat of several different species of the genus *Culex* and other
allied genera” < Sp. *mosquito* ‘a little gnat’ (dimin. of *mosca* ‘a fly’) < L. *musca*
- ⑥ < フランス語 < ラテン語 vs. < スペイン語 < ラテン語
army / armada [研究社, Barnhart]
[army n.](c1386) “an armed expedition by sea or land” < (O)F. *armée* ‘armed’
< L. *armāta* (fem. pp. of *armāre* ‘to furnish with weapons’) ‘armed force’
[armada n.](1553) “a fleet of ships of war” < Sp. *armada* ‘fleet, navy’ < L. *armāta*
(fem. pp. of *armāre*)
- ⑦ < 中世フランス語 < スペイン語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテン語
surge / source [None]
[surge v.](1511) “to rise and fall or toss on the waves; to ride” < MF. *sourgir* ‘to rise’
< Sp. *surgir* ‘to cast anchor’ < L. *surgere* ‘to raise’
[source n.](1346) “a support or underprop” ME. *sours* < OF. *sourse, surse, sorce,*
surce ‘rise, beginning’ (fem. noun use of pp. of *sordre* ‘to rise’) < L. *surgere*
- ⑧ < オランダ語 < ラテン語 vs. < 古北部フランス語 < ラテン語
mart / market [Klein]
[mart n.](1437) “a periodical gathering of people for the purpose of buying and selling”
< Du. *markt* ‘market’ < L. *mercātus* ‘trade’
[market n.](c1154) “the meeting or congregating together of people for the purchase and
sale of provisions or living stock, publicly exposed, at a fixed time and place” ME.
market < ONF. *market* = OF. *marchiet, marchie* < L. *mercātus*
- ⑨ < 古フランス語 < ラテン語 vs. < 中世オランダ語 < 古北部フランス語 < ラテン語
cloak / clock [Klein, 研究社]
[cloak n.](c1275) “a loose outer garment worn by both sexes over their other clothes”
ME. *cloke* < OF. *cloke, cloque, cloche* ‘a bell’ (F. *cloche*) < ML. *clocca* ‘a bell’
< L. *clocca* ‘a bell; a horseman’s cape because its shape resembled that of a bell’
[clock n.](1371) “the instrument for measurement of time” ME. *clok, klokke* < MDu.
clocke ‘clock’ < OF. *cloke, cloque, cloche* ‘a bell’ (F. *cloche*) < ML. *clocca* ‘a bell’
< L. *clocca*

D 三重語・四重語・五重語

英語は、同じラテン語起源の語を、あるときはラテン語から直接借入したり、またあるときは古フランス語やその他のロマンス語を経由して、借入時期や経路を異にして数回にわたって借入したことがある。そして、そのような借入が三重語・四重語・五重語等を形成しているが、一般的には二重語として扱われている。本論文では、二重語の下位区分としてこれらを分類することにする。

1) 三重語

① ラテン語からの直接借入を含むもの

①-1 < 古フランス語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテン語 vs. < ラテン語

cull / coil / collect [Klein]

[cull v.](c1330) “to choose from a number or quantity” ME. *cullen* < OF. *cuillir, coillir* ‘to collect, gather’ < L. *colligere* ‘to collect’

[coil v.](1611) “to lay up in concentric rings” < OF. *coillir* ‘to collect’ < L. *colligere*

[collect v.](1573) “to gather together into one place or group” < L. *collēctus* (pp. of *colligere*)

debt / due / debit [Klein]

[debt n.](a1300) “that which is owed or due” ME. *det, dette* < OF. *dette* < L. *dēbita* (neut. pl. of *dēbitus*←*dēbēre*)

[due a.](c1340) “that is owing or payable, as an enforceable obligation or debt” < OF. *deū* < VL. **dēbūtum* < L. *dēbitum* (neut. pp. of *dēbēre*)

[debit n.](c1450) “something that is owed, a debt” < L. *dēbitum* ‘that which is owing’ (neut. pp. of *dēbēre*)

employ / imply / implicate [Klein, Barnhart, 研究社*]

[employ v.](c1460) “to apply (a thing) to some definite purpose” < (O)F. *employer* (var. of OF. *emplier*) < L. *implicāre* ‘to enfold, involve’

[imply v.](c1374) “to enfold, enwrap” < OF. *emplier* < L. *implicāre*

[implicate v.](1610) “to intertwine; to wreath” < L. *implicātus* (pp. of *implicāre*)

estate / state / status [Klein, Barnhart, 研究社**]

[estate n.](c1230) “state or condition in general” ME. *estat* < OF. *estat* (F. *état*) < L. *status* ‘condition, state’

[state n.](a1225) “condition” ME. *stat* < OF. *estat* (F. *état*) < L. *status* ‘posture, position’

[status n.](1693) “the height or acme of a disease” < L. *status*

peer / pair / par [Barnhart***]

[peer n.](1215) “an equal in civil standing or rank” ME. *per* < OF. *per* ‘peer’ < L. *pār* ‘equal’

[pair n.](1278) “two associated together” ME. *paire, peir* < F. *paire* < L. *paria* (neut. pl. of *pār*)

[par n.](1662) “equality of value or standing” < L. *pār*

tinsel / stencil / scintilla [研究社****]

[tinsel n.](a1502) adj. passing into sb. used attrib. “of satain” < MF. *estencelle, estincelle* ‘spark’ < OF. < VL. **stincilla* < L. *scintilla* ‘spark’

[stencil v.](a1420) “to ornament with bright colours or pieces of precious metal”

ME. *stansilen, stensilen* < OF. *estenceler* ‘spangle’ (fr. *estencelle*) < L. *scintilla*

[scintill n.](1692) “a spark, always fig. a minute particle, an atom” < L. *scintilla*

①-2 < 古フランス語 < ラテン語 vs. < 中世フランス語 < ラテン語 vs. < ラテン語

aim / esteem / estimate [Barnhart]

[aim v.](1382) “to esteem, consider” ME. *aimen, eimen* < OF. *aesmer* < L. *aestimāre* ‘to estimate’

[esteem v.](c1460) “to estimate” ME. *estemen* < (O)F. *estimer* < L. *aestimāre*

* 研究社は, employ/imply のみを二重語と認定.

** 研究社は, estate/state のみを二重語と認定.

*** Barnhartは, par/peer のみを二重語と認定.

**** 研究社は, tinsel/scintilla のみを二重語と認定.

- [estimate v.](c1532) “to esteem, consider” < L. *aestimātus* (pp. of *aestimāre*)
- ①-3 < 古フランス語 < ラテン語 vs. < (古)フランス語 < イタリア語 < ラテン語 vs. < ラテン語
ratio / ration / reason [Klein, Barnhart, 研究社]
[ratio n.](1636) “reason, rationale” < L. *ratio* ‘reckoning’, fr. *ratus* (pp. of *reor*, *rēri*)
[ration n.](1550) “reasoning” < F. *ration* < L. *rationem* (acc. of *ratio*)
[reason n.](a1225) “a statement of some fact employed as an argument to justify or
condemn some act, prove or disprove some assertion, idea or belief” ME. *resoun*
< OF. *raison*, *reson* (F. *raison*) < L. *rationem* (acc. of *ratio*)
- ①-4 < スカンジナビア語 < ラテン語 vs. < オランダ語 < ラテン語 vs. < ラテン語
cross / cruise / crux [Barnhart*, 研究社*]
[cross n.](963-84) “the sign of the cross made with the right hand as a religious act”
Late OE *cross* < ON. *kross* < OIr. *cross* < L. *crucem* (acc. of *crux* ‘cross’)
[cruise v.](1651) “to sail to and fro over some part of sea without making for a
particular port or landing-place for plunder, or for pleasure” < Du. *kruisen* ‘to
cross, to cruise’, fr. *kruis* ‘cross’ < L. *crucem* (acc. of *crux*)
[crux n.](1718) “conuncrum, riddle” < L. *crux*
- ①-5 < 中世フランス語 < ラテン語 vs. < スペイン語 < ラテン語 vs. < ラテン語
primer / premier / primero [None]
[premier a.](c1470) “first in position, importance, or rank; chief, leading, foremost”
ME. *primier* < (M)F. *premier* ‘first’ < L. *prīmārius* ‘first, chief’
[primero a.](1526) “a gambling card-game, very fashionable from about 1530 to about
1640” < Sp. *primera* (fem. of *primero* ‘first’) < L. *prīmārius*
[primer n.](1386) “an elementary school book for teaching children to read” ME. <
ML. *prīmārius*, *prīmārium* < L. *prīmārius*
- ② 三語ともがフランス語経由のもの
- ②-1 < 中世フランス語 < ラテン語 vs. < 中世フランス語 < 古フランス語 < ラテン語 vs. < 古フ
ランス語 < ラテン語
legal / loyal / leal [Klein, Barnhart, 研究社]
[legal a.](1529) “pertaining to law” ME. < MF. *légal* ‘legal, lawful’ < L. *lĕgālis*
‘leagal’ (fr. *lĕx* ‘law’)
[loyal a.](1531) “faithful in allegiance to the sovereign or constituted government” <
MF. *loyal* ‘loyal, faithful, also lawful’ < OF. *loial*, *leial* < L. *lĕgālis*
[leal a.](a1300) “loyal, faithful, honest” ME. *leel*, *lei* < OF. *leial*, *leal*, *loial* < L.
lĕgālis
- ②-2 < 古北部フランス語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテン語 vs. < 古フランス語 < ラテ
ン語
cattle / chattel / capital [Klein, Barnhart, 研究社]
[cattle n.](c1275) “property, substance” ME. *catel* < ONF. *catel* ‘property’
(corresponding to OF. *chatel*) < LL. *capitāle* ‘property’ (neut. of L. *capitālis* ‘per-
taining to the head’)
[chattel n.](a1225) “property; goods; money” ME. *chatel* < OF. *chatel* < LL. *capitāle*
[capital a.](a1225) “of or pertaining to the head or top” < F. *capital* < L. *capitālis*

* Barnhart と研究社は、cross/crux のみを二重語と認定。

③ その他の経路によるもの

③-1 <イタリア語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語 vs. <スペイン語 <ラテン語
piazza / place / plaza [Klein, Barnhart, 研究社]

[piazza n.](1583) “a public square or market-place” < It. *piazza* < VL. **plattea*
< L. *platēa* ‘broad street’

[place n.](1200) “an open space in a city” ME. *place* < (O)F. *place* < VL. **plattea*
< L. *platēa*

[plaza n.](1683) “In a Spanish-speaking country, a market-place square, public place”
< Sp. *plaza* < VL. **plattea* < L. *platēa*

③-2 <古フランス語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語 vs. <スペイン語 <ラテン語
royal / regal / real [Klein, Banhart, 研究社]

[royal a.](c1374) “of blood” ME. *roial* < MF. *roial* (F. *royal*) ‘royal, regal, kingly’
< L. *rēgālis* ‘pertaining to a king’ (fr. *rēx* ‘king’)

[regal a.](c1374) “of or belonging to a king” ME. *regal* < OF. *regal* ‘regal, royal’ <
(or directl fr.) L. *rēgālis*

[real n.](1611) “a small silver coin and money of account in use in Spain and
Spanish-speaking countries” < Sp. *real* ‘royal (coin)’ < L. *rēgālis*

③-3 <古フランス語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語 vs. <フランス語 <イタリア語
<ラテン語

consuetude / custom / costume [Klein, Barnhart, 研究社]

[consuetude n.](1382) “costom, usage, habit” < OF. *consuetude* < L. *cōnsuētūdō*
(pp. of *cōnsuēscere* ‘to accustom, inure’)

[custom n.](c1200) “a habitual or usual practice” ME. *custume, custome* < OF.
costume, custume < L. *cōnsuētūdinem* (acc. of *cōnsuētūdō*, fr. *cōnsuētus* (pp. of
cōnsuēscere))

[costume n.](1715) “the custom and fashion of the time to which a scene or represen-
tation belongs” < F. *costume* ‘dress’ < It. *costume* ‘costom’ < L. *cōnsuētūdinem*
(acc. of *cōnsuētūdō*)

③-4 <フランス語 <俗ラテン語 vs. <フランス語 <俗ラテン語 vs. <フランス語 <イタリア語
<ラテン語

chief / chef / cape [Barnhart]

[chief n.](c1330) “the head of the body” ME. *chief* < (O)F. *chef* < VL. **capum*
< L. *caput* ‘head’

[chef n.](1847) “the man who presides over the kitchen of a large household” < F.
(short for *chef de cuisine* ‘head of the kitchen’) < F. *chef* ‘head’ < VL. **capum* <
L. *caput*

[cape n.](1386) “a piece of land jutting into the sea” < F. *cap* ‘head, cape’ < It. *capo*
< L. *caput*

③-5 <古北部フランス語 <ラテン語 vs. <フランス語 <ラテン語 vs. <フランス語 <イタリア
語 <ラテン語

case / chase / cash [Klein*]

[case n. ‘box’](a1300) “a thing fitted to contain or enclose something else” ME. *casse*
< ONF. *casse* (F. *châsse*) ‘box’ < L. *capsa* ‘chest’ (fr. *capere* ‘to catch’)

* Klein は, case/chase のみを二重語と認定.

[chase n. 'an iron frame'](1580) "the setting of a gem" < F. *chässe* 'box, case'
 < OF. *chasce*, *chasse* 'shrine of relics, setting of gems, casing, case' < L. *capsa*
 'chest'

[cash n.](1596) "money" < F. *casse* < It. *cassa* 'chest, box' < L. *capsa*

2]四重語

- ① <フランス語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語 vs. <フランス語 <ラテン語 vs. <フランス語 <ラテン語

gentile / *gentle* / *genteel* / *jaunty* [None]

[*gentile* a.](c1400) "of or pertaining to any or all of thenations other than the Jewish"
 < F. *gentil* < L. *gentilis* 'belonging to the same gens'

[*gentle* a.](a1225) "of person; well-born, belonging to a family of position" < OF. *gentil*
 'of good family, noble' < L. *gentilis*

[*genteel* a.](1628) "belonging to or included among the gentry" < F. *gentil* < L. *gentilis*

[*jaunty* a.](1674) "well-bred; gentlemanly" < F. *gentil* < L. *gentilis*

- ② <ラテン語 vs. <中世ラテン語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <中世ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語

quiet / *quietus* / *quit* / *coy* [Barnhart*, 研究社*]

[*quiet* a.](1382) "making no stir, commotion or noise" < L. *quiētus* 'calm'

[*quietus* n.](1540) "a receipt" ME. *quit*, *quite* < ML. *quiētus* < L. *quiētus*

[*quit* a.](a1225) "free, clear" ME. *quit*, *quite* < OF. *quitte*, *quite* 'discharged'

< ML. *quītus*, *quittus* (popular forms of L. *quiētus*)

[*coy* a.](c1330) "quiet, still" ME. *coy* 'quiet' < OF. *coi*, *coy* (earlier *quie*) 'still, quiet'
 < L. *quiētus*

- ③ <フランス語 <ラテン語 vs. <古フランス語 <ラテン語 vs. <イタリア語 <ラテン語 vs. <ラテン語

plan / *plain* / *piano* / *plane* [Barnhart**, 研究社***]

[*plan* n.](1706) "a drawing, sketch, or diagram of any object, made by projection upon
 a flat surface, usually a horizontal plane" < F. *plan* 'sketch of a district' < blend of
plan 'plane' (fr. L. *plāna* 'level') and F. *plant* 'the act of planting'

[*plain* a.](c1330) "flat, level, even" ME. *plain* < (O)F. *plain* < L. *plānus* 'even, level'

[*piano* a.](1683) "(Music) soft, low" < It. *piano* < L. *plānus* 'flat, smooth, soft'

[*plane* n.](1646) "a plane superficies" ME. < L. *plānum* (neut. of *plānus*)

- ④ <ラテン語 vs. <古フランス語 <後期ラテン語 <ラテン語 vs. <フランス語 <イタリア語 <後期ラテン語 <ラテン語 vs. <フランス語 <イタリア語 <ラテン語

campus / *champaign* / *campaign* / *camp* [None]

[*campus* n.](1646) "the grounds of a college or university" < L. *campus* 'flat
 space, open field'

[*champaign* n.](?a1400) "an expanse of level, open country; a plain" < OF. *champaigne*
 'plain field' < LL. *campānia* 'plain, level country' < L. *campus*

[*campaign* n.](1628) "a tract of open country; a plain" < F. *campagne* 'open country'
 < It. *campagna* 'field' < LL. *campānia* 'plain, open country' < L. *campus*

* Barnhartと研究社は, *quiet/quit/coy* のみを三重語と認定.

** Barnhartは, *plain/plane* のみを二重語と認定.

*** 研究社は, *plain/plan/piano* のみを三重語と認定.

[camp n.](1528) “camp (in the military sense)” < F. *camp* < It. *campo* ‘camp’
< L. *campus*

3)五重語

<古フランス語 <ラテン語 vs. <ラテン語 vs. <ラテン語 vs. <中世ラテン語 <ラテン語 vs. <西ゲルマン語 <ラテン語

dais / discuss / disk / desk / dish [Barnhart*]

[dais n.](a1259) “a raised table in a hall, at which distinguished persons sat at feasts, etc; the high table” < OF. *deis*, *dois* ‘table’ < VL. **discus* ‘table’ < L. *discus* ‘a quoit, disk’

[discus n.](1656) “a disk of metal or heavy material used in ancient Grecian and Roman athletic exercises: a quoit” < L. *discus*

[disk n.](1715–20) “the discus or quoit used in ancient Greek and Roman athletic exercises” < L. *discus*

[desk n.](c1386) “an article of furniture” < ML. *desca* ‘a desk’ < L. *discus*

[dish n.](700) “dish” OE. *disc* (rel. to ON. *diskr*, OS. *disk*, OHG. *tisc*) < L. *discus*

3 結 び

英語はもともとゲルマン系の言語であるが、T. Finkenstaedの研究グループによると、*The Shorter Oxford English Dictionary*の80,096語の見出し語のうち、大陸ゲルマン系の借入をも含めてゲルマン系の語彙は英語語彙の約26%であるのに比べて、ラテン語及びロマンス語の借入語は約58%である⁶⁾。しかも、英語の二重語を調べていくと、英語がいかにも多くのイタリック系語彙を数回にわたって借入しているかがよくわかる。例えば、古フランス語から借入していたラテン語起源の語をルネッサンス期に直接ラテン語から再度借入したり、またNorman Conquestによる政治情勢の変動からノルマン・フランス語から多くの語を借入していたがその後中央フランスとの活発な接触により今度は中央フランス語経由で同じラテン語起源の語を再度借入して、二重語を形成したものが多くある。このことは、英語文化が他の文化を柔軟に受け入れただけでなく、借入せざるを得ない政治的・経済的・文化的な社会背景があったことを端的に物語っている。英語はこのような借入を通して、比類なく豊かな語彙をもつ言語となった。このように、英語語彙の研究は、英語だけをみつめるのではなく、ヨーロッパの諸言語の中での英語の位置づけを常に視野にいれなければ真の理解は難しいことを示している。

本論文で、英語学習における二重語の認識の重要性という視点から、Allenの二重語のリストをもとに二重語の検証及びその経路の分類をおこなった。しかし、語源情報とともに二重語の記載をしている三つ辞書を調べてみると、二重語と考えられる語の語源解説の相違や、各辞書内や辞書間における二重語の認定の不統一が認められ、あらためて、二重語の定義から始めることになった。そこで、語源情報は主資料としてKleinの語源辞書を使用し、BarnhartやSkeatの語源辞書、研究社の『新英和大辞典』、そしてOEDを参考資料として活用した。検証及び分類の結果は、提示されたリストであるが、経路による分類によってそれぞれの二重語がどのような時代背景から借入を繰り返してきたかが垣間見れることとなったと同時に、今後の課題として、ゲルマン系・ギリシア系などの他の語系起源の二重語をイタリック系と同様に検討をすすめる必要がでてきた。

日本の英語学習事典での語源や二重語の記載のあるものはごく僅かである。しかし、これらの情報があれば、二重語が共通にもつ中核的語義が明らかになり、語彙の理解をより確かで、深みや幅のあるものとしてくれると考えられる。本論文が学習事典における二重語記載の資料の一部となれば幸いである。

* Barnhartは、dais/desk/discus/dishのみを二重語と認定。

注

- 1) シェーラー, M., (大泉昭夫訳)『英語語彙の歴史と構造』, 南雲堂, 東京, p. 78 (1990)
- 2) バケ, P., (森本英夫他訳)『英語の語彙』白水社, 東京, p. 94 (1985)
- 3) 片岡孝三郎, 『ロマンス語歴史文法』, 朝日出版, 東京, p. 111 (1982)
- 4) 前島儀一郎, 『英仏比較文法』, 大学書林, 東京, p. 92 (1986)
- 5) 前掲 3), p. 83 (1982)
- 6) 前掲 1), pp. 91-94 (1990)

参考文献

- Allen, E. A., "English Doublets" *The Modern Language Association of America*, Vol. XX III (1908)
- Barnhart, R. K., *The Barnhart Dictionary of English Etymology*, Wilson, New York (1988)
- Baugh, A. C. & T. Cable, *A History of the English Language* 3rd ed., Prentice-Hall, New Jersey (1976)
- Klein, E., *A Comprehensive Etymological Dictionary of the English Language*, Elsevier, New York (1971)
- Skeat, W. W., *Etymological Dictionary of the English Language*, Oxford, Oxford (1978)
- Simpson, J. A. & E. S. C. Weiner, *The Oxford English Dictionary* 2nd ed., Clarendon, Oxford (1989)
- Parmer, L. R., *The Latin Language*, Univ. of Oklahoma, Oklahoma (1988)
- イエスベルセン, O., (大澤銀作訳)『英語の発達と構造』, 博文社, 東京 (1989)
- 市川三喜・高津春繁, 『世界言語学概説』, 研究社, 東京 (1969)
- 伊藤太吾, 『ロマンス言語学入門』, 大阪外国語大学出版, 大阪 (1994)
- 片岡孝三郎, 『ロマンス語比較文法』, 朝日出版, 東京 (1982)
- 『ロマンス語言語学』, 朝日出版, 東京 (1982)
- 『ロマンス語歴史文法』, 朝日出版, 東京 (1982)
- 『ラテン語文法』, 朝日出版, 東京 (1982)
- 国原吉之助, 『中世ラテン語入門』, 南江堂, 東京 (1986)
- 小稲義男他, 『新英和大辞典』5版, 研究社, 東京 (1980)
- 島岡茂, 『ロマンス語の話』, 大学書林, 東京 (1982)
- シェーラー, M., (大泉昭夫訳)『英語語彙の歴史と構造』, 南雲堂, 東京, (1990)
- ショーラン, J., (川本茂雄他訳)『フランス語史』白水社, 東京 (1993)
- セルキリーニ, B., (瀬戸直彦他訳)『フランス語の誕生』, 白水社, 東京 (1994)
- ドーザ, A., (中原俊夫訳)『フランス語発達小史』, 駿河台出版, 東京 (1969)
- バケ, P., (森本英夫他訳)『英語の語彙』, 白水社, 東京 (1985)
- ビダル, M., (近松洋男訳)『スペイン語の歴史文法教本』, 風間書房, 東京 (1996)
- ヘルマン, J., (新村猛他訳)『俗ラテン語』, 白水社, 東京 (1994)
- ボズナー, R., (風間喜代三他訳)『ロマンス語入門』, 大修館, 東京 (1982)
- ポーブ, M. K., (大高順雄他訳)『アングロノルマン語』, 研究社, 東京 (1983)
- 前島儀一郎, 『英仏比較文法』, 大学書林, 東京 (1986)
- 三輪伸春, 『英語の語彙史』, 南雲堂, 東京 (1995)
- ラージュ, G. R., (大高順雄訳)『古フランス語入門』, 朝日出版, 東京 (1981)
- リチャード, R., (伊藤忠夫他訳)『フランス語を学ぶひとのために』, 世界思想史社, 京都 (1995)